

心の輪を広げる第一歩

関西創価高等学校 2年

永田 弘美

私は、人の気持ちを考えることは、とても大切だと思っています。自分だけがよければいい、ではなくて、その場にいる人もしくはいなくても関係がある人で、誰かが嫌な思いをすることはないか。誰かが無理をして笑っていないか。それらを常に頭に入れて生活したいと思っています。また、逆に人の気持ちをすべてわかった気にならないことも大切だと感じています。どれだけ自分で想像をしても、結局のところ他人の気持ちは本人が素直に口に出してくれない限り、わからないからです。

「想い」それは、障がいの有無にかかわらず、誰もが持っているものだと思います。それをうまく言葉にできなかったり、声に出せないことはあっても、人それぞれに想いがあるはずです。私は、その他人の想いを大切にできるかどうかで、よりたくさんの人が生きやすいと思える世の中が作れるか、決まると思います。

世界中には、文化も環境も言葉も悩みもそれぞれ違うものを抱えて生きている人がたくさんいます。そんな人たちが、なぜ協力し合ったり、国境を越えてかかわりを持てるのか。これもまたそれぞれの想いがあるからだと思います。

私が住む街では日々、より多くの人が住みやすい、生きやすいと思えるような工夫が凝らされていると感じます。毎日のように道路の工事を行っている人がいたり、警察の方がパトロールをしていたり。目に見えるところから目には見えないところまで、様々な職業の人が、地域のために日々奮闘しています。しかし、そんな中でも、やはり気になるのは障がいのある人がはたして「生きやすい」と思って生活できているのか、です。もはや今ではあたりまえのようになった信号が変われば音になること。点字ブロックがあること。手話は会話をするための言葉だということ。身近に感じられる要素はたくさんあるのに、どこか自分に関係ないことと捉えてしまう人が多いと思います。白杖を持った状態で、困っているように見える人がいても、その横をたくさんの人が素通りしていくのが現実です。子どもの頃にどれだけ「困っている人がいたら助ける」ということを教わっていても大人になると行動するよりも先に頭であれこれ考えてしまうがゆえに、すぐには実行できないのも一つの理由だと思います。し

かし、声をかけないことが必ずしも悪いというわけでもないと思います。自分から見て困っていると思っても、障がいのある人だからという理由でそう思ってしまっただけで、その人が助けを必要としているのかはその人自身にしかわかりません。自分で挑戦していきたいと考えている可能性も十分あります。良かれと思ってした行動でも相手にとっては嬉しくないことかもしれない。だからこそ、私は他人の想いに目を向けるべきだと思います。人と人とのかかわりを広げるためには「想い」をお互いに理解するしかないと思います。どれだけ相手のためだと思って行動したって、それを相手がどう思ったのかは、本人に聞いてみるしかありません。

きっと世の中、悪いことをしてやろう、相手を悲しませてやろうと思って行動している人の方が少ないと思います。誰かのことを想って、行動した結果が、本人が望んでいたものと違ったり、相手を余計に悲しませるなんて、すごくもったいないと思います。「あなたに笑顔になってほしい」「あなたの幸せのために動きたい」そう思っているなら、素直に想いを表現して、お互いが気持ちの良い関係を築けたほうが何倍もいいと思います。

障がいがあるからと特別扱いするのも違うし、自分には関係ないと素通りするのも違うと思います。障がいがあってもなくても、今自分の目の前にいる人は何をしたら喜んでくれるのか、少しでも笑顔になってくれるのか。そんなふうに考えられる人が増えれば私はすごく嬉しいし、そう考えることでより多くの人の幸せに繋がると思います。

誰に対しても、かかわるうえで大切なのは「想いをどんな形でも伝えること」そして「相手の想いを受け止めようとする事」だと思います。人それぞれ考え方や感じ方が違う中で、お互いが生きやすい環境で幸せに生きていくために、他人の気持ちに目を向けて、行動していくことが、心の輪を広げる第一歩になると思います。